

## 株式会社 ほんき村

～農家と米屋がほんきで取組む新たな産直米～



スマート農業への取り組み(平成29年)



ふるさと寄附PR活動(令和元年)

## 経緯

- 石見地方は中山間地で標高が高く、寒暖差があるため良質米が生産される。
- 平成7年に施行された食糧法により米の流通規制が大幅に緩和され、良質米を生産する稲作農家等との出会いを通じ、生産者の顔が見える米の販売という新たな取組を開始した。

## 取組内容

- 石見地方の良質米を評価に見合った高価格で買い取り、おいしさをテーマとしたお米と安心をテーマとしたお米を商品開発し、販売。
- 品質向上・玄米確保のためプラント型精米工場・低温玄米倉庫を建設。
- 消費者へのPRのため、イベントの開催や地産地消活動に取り組む。
- 生産の効率化のため、スマート農業にも取り組む。

## 活動の効果

- 取組開始初年度より米の売上げは年々増加している。
- 生産者約140件から集荷を始めた取組が今では約240件から直接集荷しており、生産者の思いも理解できるようになった。
- ふるさと納税運営サイトのふるさとチョイス大感謝祭では浜田市のブースに大勢の寄附者が訪れ、浜田市の知名度が向上したことを実感。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

生産者の思いを情報発信して消費者へつなげ、販路確保と生産者の所得向上を図る。スマート農業に取り組むことにより、継続できる農業ビジネスモデルを提案していく。

3

 いずも  
 島根県出雲市

 環境保全・  
 景観保全

 やび  
 矢尾環境保全組合

～矢尾の未来に向けた地域づくり～



6月と7月川の法面の草刈り



ハス池の拡張作業

## 経緯

- 平成19年度に「農地・水保全管理支払交付金」の導入を契機に組合を組織。交付金を活用した水路及び農道の補修を計画的に実施。
- 補修箇所が減少したため、組合の新たな発展方向として公園の設置をテーマとした。

## 取組内容

- 約60年前に土地改良事業で整備された用水路を補修計画に基づいて補修を行った。
- 未舗装の農道に生じる「わだち」の補修作業を実施。
- 川の法面の草刈りを6月と7月に実施。
- 国道沿いの休耕田に公園を設け、ビオトープとして2つの池を設置し、「千歳ハス」を植栽。池の周囲にはコスモスを播種し、10月に満開になるよう管理。また、山羊を3頭飼育。

## 活動の効果

- 用水路の補修は累計約800m以上となり、水稻の管理が改善された。
- 導入した山羊は日中は放牧地に係留し、除草に貢献。また、地域の子供たちが山羊にふれあうことにより、「癒し」効果を発揮している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

公園は隣接休耕田を活用して花を植栽していき、山羊も増やしていきたい。組合員の高齢化が進むため、互助組織として休耕田の管理を受託するシステムを構築していく。

出雲市矢尾町576 Tel: 0853-23-4754

## 障害者支援施設 太陽の里

～農家の味方「せわやき隊」～



せわやき隊メンバー



玉ねぎの収穫作業

## 経緯

- 太陽の里は昭和61年、知的障害者の授産施設として開設し、当初から農業に積極的に取り組んできた。
- 高齢農家からの作業依頼だけでなく、面積拡大を目指す農家からの作業依頼も入るようになったことから平成20年「せわやき隊」として本格的に活動開始。

## 取組内容

- 様々な農作業を農家に代わって行い、農繁期や高齢化等での人手不足をサポート。
- 農作業は仕事を細分化しやすく、多くの利用者に作業提供が可能。
- せわやき隊の取組は、農家の作業(植付け、収穫、出荷、調整、運搬など)だけでなく斐川地区の農事組合法人への労力補完にも対応。

## 活動の効果

- 施設利用者は農作業等に参加することで自信を持ち、やりがいを感じている。
- 農家には大変喜ばれており、活動を継続することにより福祉への理解が深まり、認められるようになった。
- 受託件数は年々増加。施設利用者の工賃は、農業中心の作業でありながら県平均を大幅に上回っている。
- 野菜の栽培方法を覚えた利用者がグループホームで畑を作り、ホームの食事に野菜を提供。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

「職員が作業環境や工程を工夫することで、障害を持った方々が活躍する仕事はきっとある」という思いをもとに「障害を持った人たちに就労の場を！」を目指している。

5

いづも  
島根県出雲市農林漁業、農  
村文化体験環境保全・  
景観保全教育機関との  
連携

ひかわ

## 出雲市斐川土地改良区

～つなげよう！元気なムラの取組を次世代へ！～



揚水機場遊水池での親子で生き物調査



住民と中学生による農道への植栽活動

## 経緯

- 将来の斐川町農業の担い手となる子供達に農業を通じて生態系保全の重要性、食の必要性、農業用施設の役割を学ぶ機会に接することにより農業を身近に感じてもらう必要性を認識。
- ふるさとである斐川町の農村風景を後世に残していきたいとの考えから農業用施設への花苗の植栽活動を開始。

## 取組内容

- 次世代を担う子供達を対象に出前授業や揚水機場遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈や泥上げや子供達も参加した植栽活動に取り組む。また、現在ではホタルの育成にも力を入れている。
- 米米(まいまい)田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。

## 活動の効果

- 施設の役割や多面的機能の普及啓発の取組としての出前授業は先生方から高い評価を得るとともに、取組を通して地域で自主的に水路の清掃活動が始まる等住民の意識が向上している。
- ホタルを育成することにより、珍しい幻想的な光景に賑わいを見せている。
- 農業体験を通して、農業の重要性や達成感を知ってもらい安全な農作物の提供に繋がっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

今後も農業の重要性を周知し、地域資源を子供達へ繋げていきたい。また、豊かな農業農村地帯の形成、農家所得の向上により魅力ある農業の基礎作りに地域一体となって取り組む。農・医・商・工の連携を図り、地域全体の活性化に繋がってほしい。

出雲市斐川土地改良区 Tel: 0853-72-0704

ながた  
永田集落農地・水保全管理活動組織

～『今日もえーひだ』 シバザクラの里永田～



雄大な自然の中に映えるシバザクラの花絨毯



小学生のシバザクラ植栽体験学習の様子

## 経緯

- 中山間地域に位置する集落は、棚田状農地特有の急傾斜で、長大な畦畔の草刈等の管理作業や次世代への農地の継承が大きな課題。
- 課題解決に向け、平成24年度に活動組織を設立し、多面的機能の発揮を促進させるための活動を開始。

## 取組内容

- 畦畔等の草刈作業の省力化を図るため、平成26年度から畦畔にシバザクラ、平成27年度からは農道法面等に花桃を植栽し、これまでに植栽した面積は8,000㎡になる。
- 平成29年度から小学生のシバザクラ植栽体験学習を開始。本年度より植栽体験を他集落にも拡大。
- 平成28年度から「シバザクラ祭り」を開催。来場者は3,000人を超えるも、本年度は中止となり、SNS等による情報発信を行った。

## 活動の効果

- 植栽活動は、畦畔の草刈作業の省力化のみならず、法面崩れによる水田や水路への土砂流入など災害防止効果も得ている。
- 共同作業は、女性の力が発揮されたり若い世代の積極的参加が促され、集落の活性化につながっている。
- 「シバザクラ祭り」は関係人口の増加につながり、集落から流出した子育て世代が再び故郷に目を向ける契機となっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

『花桃とシバザクラが咲き乱れる里～今日もえーひだ(比田、日だ)～』をスローガンに、地域住民が「毎日がいい日だ」と思える地域づくりを念頭におき、永田集落の取組を比田地区全体に波及させ「島根県で一番の里」を目指していきたい。

永田集落農地・水保全管理活動組織 代表 Tel:0854-34-0336

あといち

## 跡市環境保全組合

～ふるさとの農地保全～



早乙女さんの花田植えの風景



子ども達との綿摘み体験

## 経緯

- 人口減少の歯止めが喫緊の課題である跡市地域で「農地を守る」ことを目的に、平成19年度に「跡市環境保全組合」を設立。
- 20集落からなる広域的な組織としたことにより、事務の一本化や他集落との情報共有ができ、地域ぐるみの活動が展開できている。

## 取組内容

- 伝統文化である「田植え囃子」の継承活動に取り組む。参加者・見学者が増加し、花田植えを実演する田んぼも広げて開催。
- 「森のようちえん」と連携し、子ども達に地域の自然にふれあい、跡市地域に関心を持ってもらうため、「綿摘み体験」を実施。
- 「跡市地区まちづくり協議会」と連携して「ワークショップ」を開催。

## 活動の効果

- 「田植え囃子」の取組は年々参加者・来訪者が増加し、盛大に開催されている。また、「田植え囃子」の練習は子どもや若者、年配者の方の交流の場となっており、伝統文化の継承と共に、農村コミュニティの強化に繋がっている。
- 「ワークショップ」は、跡市地域の将来を「農地保全」の面から考える機会となっている。また、「ワークショップ」で出されたアイデアの実現に向けて動き始めている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

今年度は新型コロナウイルスの猛威により「田植え囃子」等の中止を余儀なくされたが、地域でできることを地域の力でやり遂げれば、乗り切ることができると信じている。

8

うんなん  
島根県雲南市環境保全・  
景観保全

6次産業化

学生・若者の  
活躍きむら  
有限会社 木村有機農園

～ 6次産業化による中山間地農業の活性化～



産直市「よってごしな菜」



米粉麺「田守り麺」製麺機

## 経緯

- 農村の少子高齢化と人口減少による農地の荒廃が大きな課題。
- 農村の景観と国土、農地を守るには、若い後継者が住み続けられる経済基盤の確立が必要であり、環境を活かした安全安心な農産物の生産と販売、農産物加工や農家レストランの開設など、複合的な取組が必要と感じる。

## 取組内容

- 平成11年より環境保全型農業に取り組み、中山間の環境を活かした農業、有機栽培等に取り組む。
- 新規需要米で高アミロース米を栽培し、100%米粉麺「田守り麺」を製造。製造特許も取得。販路拡大にも取り組む。
- 農家レストランと産直を2店舗開設。
- 島根県立農林大学校のサテライト校として農業体験実習や視察研修を受け入れている。

## 活動の効果

- 1市2町の生産者192名の売り場の確立により、生産者の生産意欲が向上。
- 生産規模の拡大と販売機能の強化のため2店舗目となる農家レストラン・産直を開設。雇用者人数の増加や定住人口の拡大にも貢献している。
- 環境保全型農業の取組面積を拡大。
- 県外からのUターン農業研修者の受け入れを始める。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

地域の農地を守り、6次産業化で若い人達に夢の持てる地域づくりを進めて経営の安定化をはかり、後継者の育成、雇用の拡大を目指す。

雲南市吉田町民谷544 Tel: 0854-74-0717

9

うんなん  
島根県雲南市農林漁業、農  
村文化体験環境保全・  
景観保全未利用森林  
資源活用さとやまて  
里山照らし隊

～美しい農村風景と環境を未来の子供達へ！～



草刈り作業後の記念撮影



左:粉炭の成型 右:蓄電器を装着した自立照明

## 経緯

- 松江からきた若者たちの「このままで里山の景観や環境を守ることができるんですか？何か始めませんか！」のひと言が地域住民を動かすきっかけになる。
- もはや自力だけでは危うくなった地域の課題解決に、外からの「チカラ」、「知恵」を呼び込む団体「里山照らし隊」を平成27年に結成。

## 取組内容

- 独居高齢者宅や離農者が所有する田畑の草刈りを、応援者とともにに行い農村景観を保全。
- 田植えや稲刈りなどの農業体験や、竹林などの自然環境を生かした子供達のアートイベントも、民間団体等との協働事業として取り組む。
- 森林資源を活かす新しい技術として開発された、木炭を原料にした炭の蓄電器の製造・開発の社会実験を開始。

## 活動の効果

- 農山漁村体験イベントには、5年間で延べ700名が参加、うち地域外からは500名が参加している。多くの来訪者との交流は楽しいと気づいた住民たちの、里山の景観保全、環境保護へのモチベーションは急速に高まってきた。
- 蓄電器の開発は、どこにでもある森林資源を使用して自分たちで製造し、蓄電が可能になるという技術として国内外から関心が寄せられている。
- TV、新聞、雑誌等で取組が掲載され、地域のPRにつながる。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

新しい出会いと多くの感謝を里山にもらたすこの事業を継続しながら、里山のコミュニティと風景を守っていきたい。

雲南市吉田町民谷340 Tel: 080-1917-5275



さんのうじほんごう

## 山王寺本郷棚田実行委員会

～神楽と雲海で広がる人々の輪～



手植えとババ引き体験中



棚田祭り。神楽を多くの人が楽しみに。

## 経緯

- 平成11年「日本の棚田百選」に認定され、平成14年に棚田展望台が整備されたことを契機に自治会の行事として棚田祭りを開催。
- 祭りを継続するため、中山間地域等直接支払制度の集落協定対象者が有志となり、山王寺本郷棚田実行委員会を結成。

## 取組内容

- 体験学習の場として田んぼの学校を年3回開催。
- 耕作放棄地を復田して棚田オーナーに貸出し、棚田の景観を保全。
- 耕作放棄地にマコモを栽培し、6次産業化に取り組む。また、小豆作りにも挑戦。
- 棚田祭りでは、地域の農産物等の販売や地域文化の「山王寺神楽」を上演。

## 活動の効果

- 田んぼの学校等の取組は次第に輪が広がり、地域の積極的な協力が得られている。
- 地域で棚田の維持・保全に努めた結果、棚田が地域内外の方々の癒しの場、心の和む憩いの場所となった。
- 田んぼの学校は、子供たちが農作業を通して自然と人間の「共生」を実感する場となると共に、地域の活性化を図る取組となっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

過疎・高齢化の進行が激しい現状ではありますが、棚田の維持保全活動や歴史ある地域文化の伝承を通して、今後も益々の地域の活性化を目指して活動を続けていきます。

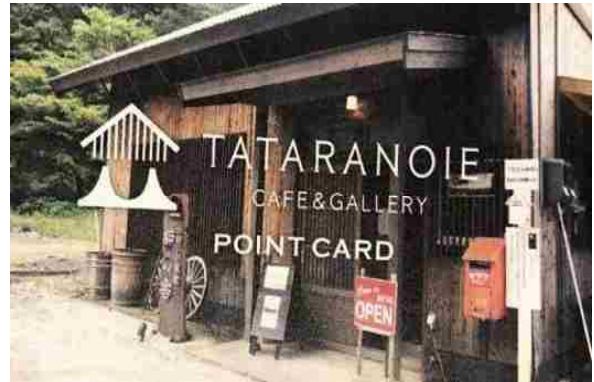
山王寺本郷棚田実行委員会事務局(高木)Tel:090-7125-2208

おくいずも  
 一般社団法人 奥出雲地域活性化プロジェクト

～たたらと食で地域を活性化する～



ライトアップした日本遺産の棚田



Caféたたらのでい

## 経緯

- 2014年、当地が国の重要文化的景観に選定される。
- 選定を機に地域を盛り上げて活性化させ、人口減少・高齢化等の問題を交流人口の増加を図ることにより解消しようと活動を開始。

## 取組内容

- 日本遺産の棚田をPRする「たたらのでい」という10,000本のLEDを棚田に照らすイベントを年2回開催。
- 棚田で収穫される仁多米「源流 仁多米こしひかり」を販売。
- 交流人口増加により、交流施設である「カフェ たたらのでい」を開業。

## 活動の効果

- 「たたらのでい」のイベントには、年間約8,000人の来場者があった。
- 「源流 仁多米こしひかり」の販売は年々増加しており、令和元年には年間12tを売上げ、農家の所得向上につながっている。
- 交流施設「カフェ たたらのでい」では、蕎麦や仁多米の提供を行い、地域のPRと地元の雇用につながった。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

空き家整備を行い農泊事業を進めていき、体験メニューとしてかまど炊き体験や山菜採り体験等を行う。農泊事業を行うことにより地域のPRを行い、交流人口の更なる増加を進めていく。

仁多郡奥出雲町中村1192-7 Tel: 0854-52-0063

くまみ  
熊見地域アグリネット

～ヒマワリと菜の花がみんなの自慢～



水路の補修作業

みさ坊  
美郷町マスコット  
キャラクター

遊休農地に咲くヒマワリとカメラマン

## 経緯

- 高齢化や人口減少、後継者不足、鳥獣被害等により農地の耕作放棄が進行している。
- 代々受け継がれてきた大切な農地と美しい農村景観を後世に引き継ごうと平成19年度に当組織を設立し、農地維持、景観保全に取り組んでいる。

## 取組内容

- 農地や水路、農道周辺の草刈りや泥上げを農業者と地域住民が共同で実施。
- 遊休農地を活用し、環境保全のためヒマワリ、菜の花を植栽。収穫した種は、食用植物油に加工し「沢谷の地あぶら『銀の香』」として地元の祭で販売。
- 猪被害対策として侵入防止柵、捕獲檻を設置し、捕獲した猪は「おおち山くじら（猪肉の加工）」の原料として提供。

## 活動の効果

- 農地維持の活動は農地・水路等地域資源の保安全管理や農業の継続、農村コミュニティの強化につながっている。
- ヒマワリや菜の花の開花時期には県内外から見学者やカメラマンが多数訪れ、TV取材も受けた。
- 猪を加工原料に提供することにより、町が推進しているジビエの利用促進に貢献。

ぎんか  
『銀の香』

## 応募団体からのアピール・メッセージ

本取組は、集落機能の維持や地域の一体感・生き甲斐の醸成、景観保全、更には町の産業振興にも役立っているため、今後も継続していきたい。



たすけ

## 助はんどうの会

～「自分の代で荒らしてはならぬ！！」～



日本の棚田百選に認定された大井谷棚田



大井谷棚田まつり(石見神楽の舞)

## 経緯

- 大井谷地区は高齢化率が令和元年度時点で63%、人口減少率は10年間で31%。
- 高齢化や担い手不足等により棚田が荒れてきたため、棚田を守り棚田を活かした地域づくりに取り組むため、平成10年に「助はんどうの会」を結成。
- ※「はんどう」とはこの地方で「水がめ」のこと

## 取組内容

- 平成11年から棚田オーナー制度に取り組み、農作業体験を行い、収穫米(棚田米)は持ち帰ってもらう取組を実施。
- 平成12年からトラスト制度を取り入れ、会費を棚田保全の支援に活用している。
- 大井谷棚田まつりを開催し、石見神楽の上演や地元野菜の販売等を実施。
- 令和元年度より約2haの棚田のあぜにLEDライトを設置し、ライトアップ(大井谷の灯)を実施。

## 活動の効果

- 棚田オーナー制度の農作業体験は、オーナーと地元小学生、農業者が一緒に活動することにより、地域間、世代間の交流に役立っている。
- 大井谷棚田まつりには、県内外から多くの来訪者がある。
- 棚田のライトアップは大井谷棚田の新たな魅力発信に役立っている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

当会では、美味しく歴史のある棚田米を多くの人に味わってもらい、都市住民の棚田に対する理解と支援を得るとともに、「自分の代で荒らしてはならぬ」の思いで耕し続けることで棚田を守っていく。

鹿足郡吉賀町柿木村白谷961 Tel: 0856-79-2720